

安心をすべての人に届けたい

公式ホームページ
http://sakuraisuguru.jp/



well-being 通信

well-being (ウェルビーイング) : 幸福、健康で満たされた状態

北本市議会議員
桜井すぐる

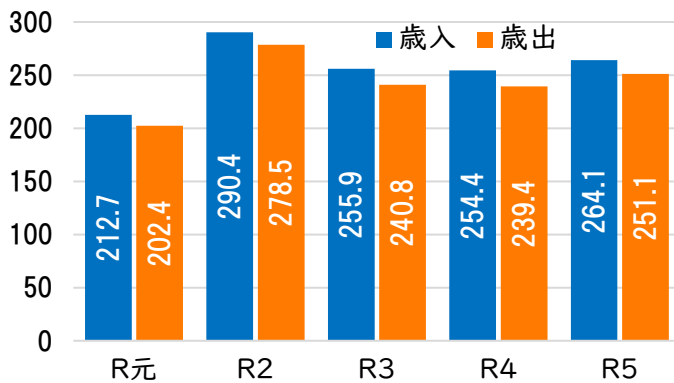


第42号

北本市の令和5年度決算【速報】 ふるさと納税寄附額 4年連続で県内市町村1位

北本市の令和5年度決算が発表されました。市議会では9月定例会において慎重に審査をしていますが、取り急ぎ決算の概要をお知らせします。

一般会計 歳入・歳出決算額の推移 (単位: 億円)



一般会計の歳入は9.7億円(3.8%)増加

歳入決算額は9.7億円(3.8%)増の264.1億円となりました。地方交付税が3.2億円、財産収入が4.3億円増加しました。財産収入は市土地開発公社の解散に伴い残余金4.3億円を受け入れたものです。市税は0.7%の微増で固定資産税の増加が目立っています。

一般会計の歳出は11.7億円(4.9%)増加

歳出は、総務費、民生費、教育費が大きく増加しました。総務費は土地開発公社残余金の積立(約4.3億円)、民生費は新中央保育所の整備(約3.6億円増)、教育費は小中学校給食費無償化(2.3億円増)が増加の主な要因です。衛生費と商工費は、新型コロナ関連事業の縮小により、大きく減少しました。

市債残高は10.2億円(5.3%)の減少

残高の減少のうち8.4億円は臨時財政対策債(地方交付税の振替措置=全額が国負担)で、純粋な市の借入残高は1.8億円の減少です。今後は公共施設の修繕や久保土地画整理事業の進捗により、市債の増加が見込まれます。

※臨時財政対策債の残高は含みません。

年度	一般会計	久保特会	合計
R3	81.8億円	10.4億円	92.1億円
R4	73.1億円	10.1億円	83.2億円
R5	71.0億円	10.4億円	81.4億円

基金残高は9.6億円(15.1%)増加

財政調整基金の残高は横ばいですが、基金全体では9.6億円増加しました。このうち4.3億円は土地開発公社残余金を公共施設整備基金に積立てたものです。今後、新ごみ処理施設整備や久保特定土地画整理事業、老朽化した公共施設の大規模修繕や再編などで大きな支出が見込まれるため着実に基金を積み増していますが、まだまだ十分な額とは言えません。

年度	財政調整	その他	合計
R3	20.6億円	36.7億円	57.3億円
R4	20.7億円	42.8億円	63.5億円
R5	20.0億円	53.1億円	73.1億円

久保特定土地画整理事業特別会計は28.0%増加

久保特定土地画整理事業は、市長が示した見直し方針(デーノタメ遺跡の保存、西仲通線の迂回化)が議会に認められたことで、事業がスピードアップしました。歳出のうち事業費の決算額の推移は下表のとおりです。地域住民からも事業の早期完了が強く望まれており、財源の確保が課題となります。

年度	R2	R3	R4	R5
事業費	0.81億円	1.71億円	2.18億円	3.33億円

介護保険特別会計は7.0%増加

高齢化の進行により、介護給付費の増加が顕著です。85歳以上では認定率が50%を超えますが、本市で今一番人口が多いのは75歳前後であることから、今後10年間は要介護者が増加する見込みです。介護人材の確保、介護サービス供給体制の整備、介護保険料の高騰など、介護事業を取り巻く課題は山積しています。

年度	R3	R4	R5
認定率	14.0%	14.5%	15.4%
歳出計	49.7億円	50.8億円	54.4億円

※認定率は「要介護(要支援)認定率」で、第1号被保険者に対する要介護・要支援認定者の割合

決算の詳細は9月定例会で審査しています。
詳しい内容は私のホームページで説明します。

インスタはじめました!



Follow Me!



SAKURAISUGURU.KITAMOTO

令和5年度のふるさと納税寄附は12億円 4年連続県内市町村第1位

令和5年度のふるさと納税寄附の結果が総務省から公表されました。北本市に対するふるさと納税寄附額は11億9,588万9千円(前年度比7.7%増)で、4年連続で県内市町村1位でした。最近5年の寄附額の推移は次のとおりです。

(単位:億円)

年度	北本市	鴻巣市	桶川市	県計	全国計
R元	2.48	0.73	0.13	31.06	4,875.4
R2	6.00	0.96	0.24	46.70	6,724.9
R3	9.07	1.09	0.26	54.68	8,302.4
R4	11.10	1.18	0.27	72.98	9,654.1
R5	11.96	1.13	0.21	88.14	11,175.0

なお、県内市町村と全国のトップ3は次のとおりです。都城市は2年連続で200億円近くを集めています。ちなみに、北本市の全国順位は220位です。

(単位:億円)

	埼玉県内		全国	
1	北本市	11.96	宮崎県都城市	193.84
2	深谷市	8.83	北海道紋別市	192.13
3	川越市	6.41	大阪府泉佐野市	175.14

なぜ北本市に多くの寄附が集まるのか？

ふるさと納税をすると寄附額に応じた返礼品を受け取ることができます。返礼品は寄附額の3割以内です。北本市に対する寄附額のうち94.5%が銀座英国屋のスイーツ仕立補助券に集中しています。大口寄附が可能で有効期間も3年と長い仕立補助券は、富裕層の節税対策として人気のようです。また、市が使える経費(返礼品購入・手数料等)は寄附受入額の5割以内と決められていますが、この経費の中で折込広告等によるPRを積極的に行っていることも寄附が集まる要因と考えられます。

北本市にいただいたふるさと納税の使いみち

多くの自治体では寄附の際に寄附者が使い道を指定できるようになっています。北本市では「子どもの成長を支えるまちづくりに関する事業」「健康でいきいきと暮らせるまちづくりに関する事業」など8つの分野から選べるようになっています。

ふるさと応援基金を活用した主な事業(令和5年度)は次のとおりです。総額で3.6億円を活用しました。

こども医療費支給事業	1億840万円
予防接種事業	6,000万円
新ごみ処理施設整備基金積立金	5,000万円
新中央保育所整備事業	3,714万円
民間保育施設等補助事業	3,683万円

8月10日から12日の3日間、能登半島地震の災害ボランティア活動に参加しました(2回目)。今回は、輪島市、珠洲市、能登町などでブロック塀の撤去や避難所の片付けなどのお手伝いをしました。

被災地ではまだまだ復興支援が足りていない状態です。ボランティア参加や寄附をぜひお願いします。

詳しくは私のホームページで報告していますので、ぜひご覧ください(右のQRコードから)。



ふるさと納税によって失われた税金は？

北本市民が他の自治体にふるさと納税をすると、個人市民税が控除されるため、北本市の税金が減少します。最近5年の控除額は次のとおりです。左の寄附額と見比べてみてください。多くの市が赤字です。

(単位:億円)

年度	北本市	鴻巣市	桶川市	県計	全国計
R2	0.72	1.33	0.98	184.25	3,479.3
R3	0.91	1.72	1.26	239.76	4,432.9
R4	1.21	2.28	1.61	322.25	5,716.8
R5	1.53	2.69	1.96	390.69	6,804.9
R6	1.75	3.19	2.32	445.44	7,682.3

ふるさと納税制度による収支は？

北本市は令和5年度に約12億円の寄附を受け入れた一方で、個人市民税の控除により約1.75億円の税金を失っています(R6課税分)。地方交付税制度により税金減の75%が補てんされるため、実質的な税金減は約4,400万円(25%分)です。

また、12億円の寄附を受け入れています。返礼品購入に3.5億円、ポータルサイトへの手数料等として1.8億円などを支出しているため、手元に残るのは6.6億円、税金減を考慮すると純利益は6.2億円になります。

ふるさと納税制度の大きな問題点

莫大なコストを結局は国民が負担している

ふるさと納税制度には次のような問題点があります。

- ①税金の偏在(都市部に多く、地方に少ない)を是正することが目的なのに、返礼品による寄附金獲得競争になっており、新たな自治体間格差を生み出している。
- ②高所得者ほど大きな節税効果を得られ、低所得者はほとんど恩恵を受けられない。
- ③寄附額が多い自治体ほど、広告など多くの経費を支出できるため、特定の自治体に寄附が集中する。
- ④寄附額の約2割が手数料等としてポータルサイト運営事業者や決済事業者に支払われている(これらを利用しないと寄附の獲得が難しい)。
- ⑤寄附による税金減分は地方交付税(財源は国税)で穴埋めされており、国民の負担増につながっている。

制度がある以上、本市としても寄附金の獲得に取り組まなければならないが、あらゆる面で不平等な制度と言えます。問題の多い制度であることを国に指摘し、抜本的な制度の見直しを求めるべきです。

発行者：桜井すぐる後援会(代表：桜井卓)
住所：〒364-0034 北本市高尾1-166-6

元埼玉県職員。51歳。会派：緑風会 所属。
令和元年5月～北本市議会議員(現在2期目)
健康福祉常任委員会、埼玉中部環境保全組合、
新たなごみ処理施設等建設検討委員会委員

お困りごと、お気軽にご相談ください

090-9389-3572(桜井携帯)

sakuraisuguru.kitamoto@gmail.com